

令和七(二〇二五)年度 入学試験問題 (一次)

国 語

令和七年一月二五日

十三時三十分～十四時三十分

〈 全体的な注意事項 〉

- 一 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開けないでください。
 - 二 この冊子の本文は、十九ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明な箇所などがあつた場合には申し出てください。
 - 三 試験開始とともに、解答用紙の指定欄に受験番号・氏名を記入し、さらに解答用紙のマーク欄に受験番号をマークしてください。
 - 四 解答は解答用紙の所定の解答欄に記入してください。
 - 五 問題冊子の余白等は適宜利用してよいですが、どのページも切り離してはいけません。
 - 六 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、試験監督者がカードを用いて注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。
 - 七 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。持ち帰った場合は、失格となります。
 - 八 やむを得ずトイレに行く場合や質問がある場合には、無言で手をあげ、試験監督者の指示に従ってください。
- 〈 マーク記入上の注意事項 〉
- 一 解答は各設問ごとに指定された数だけ選び、該当する記号を塗りつぶしてください。
 - 二 解答には、HB以上の鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
 - 三 訂正は消しゴムできれいに消してください。

第一問 次の文章を読んで、後の問い（問一～問六）に答えよ。

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

問一 空欄 a) d に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。ただし、

同じものを二度以上用いてはならない。

a

1

b

2

c

3

d

4

- ① 決して ② しかし ③ ともすれば ④ つまり
⑤ なぜならば ⑥ もしくは ⑦ 例えば ⑧ では

問二 傍線部1「『自分が何をしたいのか分からない』『将来どうなりたいたいのか分からない』という悩みを抱える人が、とても増えて

きている」とあるが、筆者がそのように述べる理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。
5

- ① 子どものころから自分の表明した意思が親に受け入れられることがなく、言われるままに生きるしかなかったので、自分の意思をもつことすら放棄するようになってしまったから。
② 子どものころからさまざまな障害に直面し、そのたびに劣等感にさいなまれてきたため、進路や職業を選択する場面においても、主体的な判断をするのを避けるようになってしまったから。
③ 子どものころから動力のないトロッコのような生き方をしてきたため、「生きる意味の喪失」といった重要な問題について真摯に向き合うこともしなくなってしまったから。
④ 子どものころから「好きなこと」や「嫌いなこと」について真剣に考えたこともなく、そのため、人生の重大な場面において最適な判断をすることができなくなってしまったから。
⑤ 子どものころから用意された枠組みの中で言われる通りに生きることを親から強いられてきた結果、自分自身がどのような意思をもっているのかを考えることすらしなくなってしまったから。

問三 傍線部2「ハングリー・モチベーション」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

い。 6

- ① 将来的な成功のために、あらゆる手段を尽くすことを正当化する根拠になるものである。
- ② 飽食の時代である現代においても、依然として多くの人々に人生の指針を与えるものである。
- ③ 人間の成長過程において、「受動的生」を超越するための原動力として働くものである。
- ④ 今よりも良い生活を手に入れるための行動へと、人々をどこまでも駆り立てるものである。
- ⑤ 他人に依存せず自立した生を営むために必要な、反骨精神とでもいうべきものである。

問四

空欄

X

・

Y

に入れるのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

X

7

- ① 子どもたちの「受動的生」はなおのこと加速させられてしまった
- ② 「好きなこと」ばかりをして過ごす子どもが増えていった
- ③ 子どもたちは自分なりの方法で楽しい時間を作るようになった
- ④ 子どもたちはかえって「積極的」に自らの生を営むようになった
- ⑤ 「受動的生」と「積極的生」の相克はより激しいものになった

- ① 「素直さ」がもつ価値
- ② 「汝なすべし」の大切さ
- ③ 「われは欲す」の中心
- ④ 「すべき」が意味すること
- ⑤ 「好き／嫌い」の違い

問五

傍線部3「人間が成熟していく過程を『駱駝↓獅子↓小児』という象徴で語っている」とあるが、本文中の波線部ア(オ)の語句のうち、この場合の「獅子」の段階に当てはまる最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

9

- ① 生きる意味の喪失
- ② 空白の時間
- ③ 心理的去勢
- ④ イヤイヤ期
- ⑤ 一人前の社会人

問六 次のイ～ホについて、本文の内容と合致するものは①に、合致しないものは②に、それぞれマークしなさい。

イ 子どもとはもともと、「空白の時間」の中で自分が何をやりたいのかを考え、判断するものであった。しかし、何かにつけて親が干渉するようになれば、そのような時間は奪われ、子どもは反発すらなくなってしまう。

10

ロ 近年、自分自身の「好き／嫌い」についてさえもはつきりと自己主張をすることができない人が増えている。そのような状態を克服するためには、まず自分が何を「すべき」なのかを熟知することが必要である。

11

ハ 謙虚であることや従順であることは、また素直であることは、かつて美德として刷り込まれた。そうした価値観を払いのけ、自我を取り戻すためには、まず自分の「心」が発する小さな声に耳を傾けなければならない。

12

ニ 自分が自分であるためには、外部の存在に対する反抗や拒否が不可欠の前提となる。そうかといって、すべてに対して「イヤ！」という姿勢をとれば、自分が存在することの意味を見失うことにもなりかねない。

13

ホ 少なくとも20～30年前までは、人々は自分の思うようにならない現実我真剣に悩むようなことがあった。そこには、物質的な豊かさが実現すると、かえって生きる目標が失われるという矛盾が表れている。

14

第二問 次の文章を読んで、後の問い（問一～問七）に答えよ。

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

問一 空欄 a) f に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。ただし、

同じものを二度以上用いてはならない。

a 15 b 16 c 17 d 18 e 19 f 20

- ① 台頭 ② 産出 ③ 現前 ④ 礼拝
⑤ 異化 ⑥ 内包 ⑦ 更新 ⑧ 獲得

問二 傍線部1「そのような世界を『現実』の一部としてきた」とあるが、どのようなことを述べているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。 21

- ① 宗教的なメディアが表象する虚構の世界は、信仰心をもつことによって現実味を帯び、いつのまにか現実の一部となつてしまふこと。
② さまざまなメディアによって作り出された世界は、現実には存在しないが、その価値を信じる人びとにとっては現実の一部となること。
③ メディアを駆使することによって創造される世界は、現実が入り込み虚構との区別が曖昧になることで、現実の一部となつていくこと。
④ さまざまなメディアが作り出す虚構的な世界は、現実の中に参照対象をもたないため、現実の一部とみなすことで成立していること。
⑤ 本来虚構でしかない宗教的な世界は、メディアが媒介することで現実の一部となり、それを受け入れる人に信仰心が生まれてくること。

問三 傍線部2「オタクたちは特殊であるわけではない」とあるが、筆者がそのように述べる理由として最も適当なものを、次の

①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

22

- ① オタクといわれる人たちは、アニメの中の美少女キャラクターに「萌え」という感情を抱くようなことがある。しかし、私たちも同じように、フィクショナルな世界と現実とを一連のものとしてとらえることがあるから。
- ② オタクといわれる人たちは、現実の中に参照対象のない美少女キャラクターを愛好し、それに「萌え」ことがある。しかし、私たちも同様に、メディアが作り出した像やイメージに感情移入することがあるから。
- ③ オタクといわれる人たちは、二次平面上の美少女キャラクターに「萌え」ようなことがある。しかし、現実と虚構との区別がつかなくなり、虚構に対して喜怒哀楽といった感情を向けることは、私たちにもよくあるから。
- ④ オタクといわれる人たちは、虚構でしかない美少女キャラクターに「萌え」という感情を向けることがある。しかし、そのような逸脱はオタクに特有のものではなく、ともすれば私たちにも起こりうるから。
- ⑤ オタクといわれる人たちは、メディアの中に存在する美少女キャラクターに「萌え」という倒錯した感情を抱くことがある。しかし、現実とはかけ離れた虚構の世界に没入するようなことは、私たち一般にも起こるから。

問四

空欄

X

Y

選び、マークしなさい。

に入れるのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ

X

23

- ① 何気ない一言が正直な思いを端的に指し示したり
- ② 偶然の出会いが人の一生の不思議さを指し示したり
- ③ 科学の実験が思いもよらない結果を指し示したり
- ④ 桜の開花があたたかな春の訪れを指し示したり
- ⑤ 不慮の事故が何者かによる呪術の存在を指し示したり

Y

24

- ① やがて自分も親元を離れ一人で生きていかなければならなくなる事
- ② 幼いころ通った学校の校舎が建て替えられてもどこにも存在しない事
- ③ 自分が慣れ親しんだ場所から離れようとしたところで無駄である事
- ④ かつて自分が遊んだおもちゃと同じものはもうどこにも売られていない事
- ⑤ どれだけ懇意にしても周囲にいる人間はあくまでも他人である事

問五 傍線部3「ある種の『メディア』」とあるが、ここでのメディアとはどのようなものか。それに関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

25

- ① 宗教建築やそこで行なわれる宗教儀礼のように、現実とは隔たったフィクショナルな空間や時間を作り出すものであり、たとえば、競技場やそこで行なわれるさまざまなスポーツもそれに当たる。
- ② その場所にまつわる伝承や記憶を、過去から現在、そして未来へと形を変えることなく受け継いでいくものであり、たとえば、博物館や文書館、図書館といった施設がそれに該当する。
- ③ かつてその土地に生きた人びとと、今生きている私たちとを接続する役割を果たすものであり、たとえば、さまざまな伝承や記憶を刻んだ歴史的建造物、民話にちなんだ場所などが挙げられる。
- ④ 私たちに超現実的な像やイメージをもたらすものであり、たとえば、さまざまな宗教儀礼やそれが行なわれる宗教建築がその典型であるが、小説やマンガ、ドラマなどのメディア上の表現もそうである。
- ⑤ 現代に生きる私たちを接続し、一つの集団としてまとめる働きをするものであり、たとえば、生活空間の地理的条件や物的条件のみならず、村や都市、国土に対する愛着がその例となる。

問六 傍線部4「それ自体もまたメディアたりえ」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤

のうちから一つ選び、マークしなさい。

26

- ① 東京という都市や日本という国は、それ自体はフィクショナルなイメージでしかないが、神話や物語、さらには土地や建物、風景といったものによって幾重にも媒介され、表象されることではじめて、現実とかわることになるということ。
- ② 東京という都市や日本という国は、現実の中に通常の意味での参照対象をもつ表象を媒介して理解されるというよりも、むしろ、そのような参照対象をもたないフィクショナルなイメージそのものとして理解されることのほうが多いということ。
- ③ 東京という都市や日本という国は、神話や物語のように文字化されたかたちで描かれるのみならず、そのものの中に、その地にかかわる記録や伝承などが刻み込まれた史跡のような存在を有し、それを通じて描き出されもするということ。
- ④ 東京という都市や日本という国は、史跡や記念碑、歴史的建造物を多く有し、かつての記憶や記録を今に伝えると同時に、東京や日本といった表象そのものが、そのような記憶や記録によって構成されることにもなるということ。
- ⑤ 東京という都市や日本という国は、その地の記憶をとどめ、人びとに想起をもたらすものが蓄積し、相互に関係することによって構成されているだけでなく、それ自体が今を生きる私たちの間につながりを生み出す存在にもなり得るということ。

問七 次のイ～へは本文の論の展開に関して述べているが、説明として適当なものは①に、不適当なものは②に、それぞれマークしなさい。なお、①～⑩は段落番号を示している。

イ ①では、本文の中心的なテーマである「虚構の世界」の定義と、それに対する筆者の暫定的な見解を示し、それを踏まえて、②以降では虚構に関する多面的な議論を展開している。

ロ ②で指摘した「マルチ・メディア」の具体的な例として、③ではいったん二次平面上のキャラクターを挙げているが、それは特殊なものにとどまることをのちに強調している。

ハ ⑤ではまず、それまでの①～④で示された考えを「さらに進めると」とした上で、「メディア」という概念でとらえることのできるものがより広範に及ぶと指摘している。

ニ ⑤から⑥にかけて、現代における「メディア」の具体例を数多く挙げたのち、⑧ではそれらを抽象化するかたちで「メディア」を再定義し、その学問的な意義について考察している。

ホ ⑨・⑩では、⑧までに筆者が述べてきた虚構と「メディア」に関する見解を踏まえて「社会」と「世界」のあり方について検討し、そのあるべき姿について私見を述べている。

ヘ 本文は、虚構と現実の関連について「メディア」のあり方を通じて論じたのち、私たちが今、いかなる状況を生きているのかという点に関し筆者が見解を述べるといふ展開になっている。

32

31

30

29

28

27

第三問 以下の問い（問一～問五）に答えよ。

問一 次のA～Dについて、傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 国家のためにジンリヨクする。 33

- ① ジンダイな被害が生じる。
- ② 証人のジンモンを行う。
- ③ 一視ドウジンの扱いをする。
- ④ 問題をジンソクに処理する。
- ⑤ 窃盗団を一網ダジンにする。

B 鳥がイツセイに飛び立つ。 34

- ① セイチヨウな音を奏でる。
- ② セイヤク書に署名捺印する。
- ③ 校歌をセイシヨウする。
- ④ シセイの人々の生活を描く。
- ⑤ 友人が事故でキユウセイする。

C 今年の運勢をウラナう。 35

- ① 一帯をセンリヨウする。
- ② 新商品のセンデンをする。
- ③ 値センキンの活躍をする。
- ④ 哺乳瓶をセンジヨウする。
- ⑤ カンセン症の対策を講じる。

D ユウモウ果敢に攻め込む。 36

- ① 道路にユウセツ剤をまく。
- ② 温泉がユウシユツする。
- ③ ユウウツな表情を浮かべる。
- ④ 会長職をユウタイする。
- ⑤ ユウキユウの時が流れる。

問二 次のA～Cの四文字熟語の空欄に入る漢字を、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 緩 自在

37

B 態依然

38

C 閑話 題

39

- ① 旧 ② 急 ③ 糾 ④ 弓 ⑤ 久 ⑥ 休

問三 次のA～Cのカタカナの語の意味に最も近いものを、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A ニヒリズム

40

B シニリズム

41

C ペシミズム

42

- ① 温情主義 ② 悲観主義 ③ 事大主義 ④ 虚無主義 ⑤ 権威主義 ⑥ 冷笑主義

問四 次のA～Cの対義語として最も適当なものを、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 質素

43

B 抑制

44

C 凡庸

45

- ① 促進 ② 至言 ③ 多様 ④ 華美 ⑤ 偉大 ⑥ 頻繁

問五 次のA・Bの言葉の用法として最も適当なものを、後の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 妙味

46

- ① 政治家であれば、妙味に満ちた発言をするべきではない。
- ② 不可解な現象を見て、いかにも妙味といった顔をする。
- ③ すぐれた文学作品にある妙味を、ぜひ感じてみたいものだ。
- ④ 面接試験では、妙味なく自然に振る舞うことが大切である。

B フォードバック

47

- ① かつての生々しい記憶が、だんだんとフォードバックしてくる。
- ② 実験を繰り返すことで、わずかなフォードバックを解消する。
- ③ 市場における商品の評価を、生産者の側にフォードバックする。
- ④ いくらなつかしくても、過去にフォードバックすることはできない。